

乗込み本番。三人の名手が、野に飛び出す。そして…

## 5 乗込みべらに会いに行こう。PART II

稲毛利夫、城沼で49センチ！ 柵網 久、手賀川で巨べらとの死闘！ 糸井日出男、砂沼・激乗込み！



●今月の表紙●

angler: 稲毛利夫  
field: 城沼  
photo: 本誌・根本良一  
layout: 本誌・田中里史

### COLOR (カラー)

- 21 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… **へらぶな浪漫街道**  
《第十八回》二泊三日、北陸夢街道。
- 27 **新連載** 戦い続ける男、漢野へら鮒会、年間タイトルへの挑戦。小池忠教 激闘の軌跡  
《第3戦》4月例会・三島湖・豊英湖
- 33 生井澤 聡&山中いつ子の**佐原水郷の四季**  
《其の6》春の与田浦水道を釣る
- 40 **新連載** 新れるミスターGが一試読しましょう。柵網 久 あなたの夢を叶えます。  
《第3回》巨べらを釣らせて！ ゲスト:小山隆司さん
- 46,146 原始釣人・稲毛利夫&筑東釣人・モロちゃんの純野釣り探求記!  
**アタリをちょーだい!!**  
《Vol.6》八反沼/立出沼/無名の池/上沼/下沼/西明寺池(埼玉県東松山市)
- 118 **竹とともに生きる。**  
《第10回》「朴石」作者 下野啓次
- 121 **西日本川釣り紀行 北川穂積**  
《第18回》馬洗川(広島県)
- 125 **新連載** 若き[splasher]、あらゆるフィールドを楽しむ!!  
杉山達也の**SPLASH BEAT III**  
《Vol.3》大雪警報、西湖&精進湖!!
- 130 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!?!」  
《Vol.18》森崎政典の「Base of Wild」第二弾
- 134 熱血釣り女・吉川ひとみがいく! 「へらってヤバイわっ!!」  
《第24回》ウドンを作って清遊湖で爆釣!?
- 138 **好きです! へら鮒釣り!**  
《今月の釣り人》市川市 佐々木直恵さん
- 140 **頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男**  
《今月の釣り人》ドボンの釣りですべてを通す 宮崎勝雄さん
- 142 **列島縦断 旅するカメラ**  
《群馬県PART IIの⑥》月夜野付近と富岡付近 温水溜め池ほか
- 177 **新連載** 名手帰還。野釣りファン、お待たせ!!  
戸張誠 **野釣り道場**  
《第3回》【春の戸面原ダム 上郷筋を釣る】
- 183 岡田 清 **Deep Side Angle**  
《Vol.9》【反応】 野田幸手園
- 189 **NEO-HERA INVITATIONAL 2004**  
《第1戦》高滝湖
- 192 **フィッシングレディ**  
《今月のレディ》鈴木雅代さん 野田幸手園(千葉県)

### MONOCHROME (モノクロ)

- 50 **今月の要チェックフィールド** 編集部
- ★エリアレポート
- 52 赤田公園の池(熊本県) 河口正伸
- 54 赤祖父湖(富山県) 山本一郎
- 55 津風呂湖(奈良県) 前田誠志
- 56 筏川津寄せ場(愛知県) 後藤 誠
- 58 **あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮒釣り**  
《第14回》春の乗込み特別企画 しのを野釣りに連れてって♡ 甚兵衛広沼
- 62 トーナメント小林恭之が挑む! **竿頭までぶっ飛ばせ!!**  
《第6回》HERA-1GP関東予選 椎の木湖
- 66 **NHCスピリット**  
《Vol.9》'03年NHC全国大会第二位・太田武敏 in 隼人大池
- 73 **江成公隆のトーナメント、復活への道。**  
《Vol.24》カットジ釣行記(!?) in 弁天F.C月例会 後編
- 82 **そんなモジリにダメされて… 天野正由**  
《その6》桜満開、巨べら乱舞!? 亀山湖
- 88 **水辺のプラネタリウム 吉本亜土**  
《今月の星空》「砂漠の水辺」
- 93 **元気が出るへら鮒 西田美明**  
《第18回》「こだわって元気」の巻
- 98 **最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 高橋謙司**  
《第十七話》今月の指令:春だ! 乗込みSP  
「タカハシよ、45cmオーバーを釣り上げる!」PART II
- 102 **野田幸手園新聞**
- 104 **ワクワク管理釣り場情報**
- 106 **HERA-1グランプリ関東予選**
- 108 **小売店情報**
- 150 **竹竿&合成竿で未開の釣り場を楽しむ! オデコバンザイ!?**  
《その6》小貝川旧河川(茨城県)&手賀川水系(千葉県)
- 154 **ダイワ「龍聖」体感フェア 大試釣会** 椎の木湖
- 156 **竹馬創竿四十周年/こま島創竿三十五周年 記念釣会**
- ★へら鮒BOX
- 159 里ちゃんの新米編集長雑記
- 160 情報発信基地
- 162 ボイス
- 168 コラム「夢中と書いて夢の中」伝道師P
- 169 **新コラム**『日研だより』日研広報部長・遠藤克巳
- 170 **新コラム**『へら狂おやじと呼ばないで』白石和弘
- 172 釣果予想クイズ
- 174 プレゼント発表
- 175 広告索引
- 176 編集後記

### STAFF

●Producer  
根本良一

●Editor in chief  
田中里史

●Editor  
大場勝良  
諸富一秋  
根本百合子  
伊藤小百合

●Planner  
〈オフィス・えぶ〉  
藤原 肇

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がるとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

## 「一歩前へ！」

〈Vol.24〉

## カットビ釣行記!?

in 弁天F.C月例大会

後編

+α

### 【カットビ君と西澤良純 〈にしざわよしずみ〉】

本誌「へら附」にて、1989'1月号～1990'8月号まで20回にわたって「カットビ釣行記」を執筆連載。なんと当時はまだ高校生だった。10代の若手が連載を持つなど考えられなかった時代の事である。突破口を開いたのは「へら専科」で幕々しくデビューした鳥居祐輔氏と思われがちだが、元祖は実は西澤氏であった。進学や就職など、釣りの距離が遠ざかった時期もあったが、現在ではトップトーナメントの一人としてシーンに君臨している。(ちなみに新婚♡) 現在でも氏を「カットビ君」と呼ぶのは、江成・本多氏・岡田清氏・萩野孝之氏(一志作者)の4人だけだそうである。現在31歳。先月号で33歳などと書いてしまっただが、思っきり里のミスタイプである。お詫びして訂正致します！

#### ○主な戦歴

1999～2000ダイワ関東へら釣り選手権(現在はダイワスーパーバトルカップへ移行) 二連覇  
2001～2003マルキュークラブ対抗選手権に「きもと真附会」として三年連続全国大会出場

#### ○江成とのかかわり

釣りへの情熱がやや薄れかけていた20歳前後、ちょうどその頃トーナメントシーンに躍り出た江成、大竹氏らの釣りをみて衝撃を受ける。「ナジませる超・短バリスセティング」とその理論に酔い、当時江成らが使っていた「本多作」も揃え、今も愛用する。

同じ釣りでは勝てないと感じていた氏は、シーンから江成や大竹氏らが消えていった90年代後半、短バリスセティングを生かした独自の浅ナジミの落とし込みセット理論を完成、爆発する。浅ナジミのセットといえは、小林泰之氏の「イグル釣法」があまりにも有名だが、トーナメントで結果を出したのは西澤氏が先だった。



「先月号より続く！」  
カットビ君(以下「カ」)：ハハハ。ところで江成君は今「クワセでウケ」なんて言ってたけど、なんだかららしくないコメントに感じたのは気のせいかな？  
江成(以下「江」)：..えっ、そうかな？  
カ：だって、以前に書いてたよね。「クワセっていうのは人間の思い込み。へらにとってはどうでもいいこと」だって。それにしても数ある粒子の中からクワセだけにウケを出してもらおうなんて、ムシが長過ぎるんじゃないの？  
江：いやそれはさ、クワセの付いたハリス全体のアオリとかそういう事さ。だってへらの反応をウキに伝えられるのは糸のテンションしかないんだからさ、すなわちハリスがついた物体だけって事になるじゃんか。  
カ：ってことは、へらはクワセだけに反応しているわけではなく、水中の粒子全体に反応している中で、たまたまテンションを伝えられるのがクワセって事ではないんですか？  
江：そういう事なんじゃないの？  
カ：その割にはウドンも用意してこなかったんでしょ？ 軽いクワセでアオリを見切ろうなんて、ずいぶんといふ加減だね。(笑)  
江：それについては俺も反省してるよ。ウドンもらってからは世界が違ったからね。  
カ：..となると、やっぱり江成君のセリフはおかしいよ。へらはクワセだけを選択して反応しているわけじゃないと認めた以上、クワセに反応させたいというのは厳密に言えば間違いないでしょ。ソレ、反応させてるのはバラケと言ったっていいんじゃないの？  
江：..うーん、なるほど..そういう突っ込みかあ。確かにそうとも言えるかもね。アマイバラケで水中を汚してる状態だもんね..、じゃあ、アレ？バラケの抜け切った空の上バリだって同じだなんて言いたい？

セット釣りの「ウケ」って何？



3月7日(日)、弁天F.C月例大会でメロった江成。終了後のファミレスで飛び出したカットビ君の理論は「もしかしら江成復活への大きなきっかけとなるかもしれない...

カ：..そこまでは言うつもりはなかったけど(笑)、僕はセットは「バラケ&上バリ」が主導だと考えているんですよ。これはある意味で江成君達の釣りをキチンと継承している証なんだよね。それなのに江成君ときたら..  
江：..おお、サンキュー！ なんだか怒られてんだか褒められてんだかよくわかんないけど(笑)。いやあ最近はず、ガッツ小林君なんかの記事が目につまるじゃない？ やっぱ影響されるんだよね！  
ミ：..ハハハ..一読者としては。カットビ君は小林君とはお友達？  
カ：小林君とは釣り場で会うと会話をする程度で、親しいという間柄ではないですよ。  
江：..そっかあ。どちらも同じ浅ナジミの釣りだけど、カットビ君的に比較するとうう？ 分析したことある？  
カ：..確かに彼らの釣りと僕の釣りで共通しているのはナジミが浅いという部分ですね。でも、本質

的な部分は別物って僕は考えてます。僕の釣りは、あくまでも「バラケ&上バリ」で、彼らは「フワセ」を主導とした浅いナジミの釣りだ。ただ、釣りをしていく中で結果的に辿り着く所は一緒かもしれないけど。それと僕的にはクワセの張りは、ある程度保っていきたいんですよ。きつと彼らに比べたら下ハリスも短めだし、捕らえているへらの位置も、彼らほどは土方ではないはずですよ。さつき江成君が「漂い系」って言ってましたけど、それをどう料理していくかっていう部分で言えば、彼らの釣りは「遠巻き」型であるのに対し、僕の釣りは「引きずり」型ですね。今日の弁天のようにクワセ自体に反応が弱く、また甘い餌で受けさせようとしても逆に抜けてしまふ時なんかは、「バラケ」は締めながらも浅ナジミにしたい。だから「上バリ」が重要なんです、僕にとりて。それにこんなこと言ったらアレですけど、イーグルもかなり難しくなってきたって僕は見えますよ。本質を知らないまま彼らを模倣するファンがいるじゃないですか。タナ規定がある池だと、水面直下は安全地帯ですよ。何でもアリならそこそこ釣れちゃうわけですよ。で、面白がってあつちこつちの池でやりますよね。だからへらも学習しちゃうんですよ。チャカムクと同じ運命です。もちろん当の小林君達は、広いなりにヒットゾーンを一定にするってことは意識している筈なんですけど、それが最近より狭くなってきているんですね。そうなるとうしたってゼロナジミは封じざるを得ません。落ち込みなりのタナの凝縮が一段と求められていてって事なんです。江成君の今日の敗因はズバリこういう事ですね。

江：だーいじぶんだいじぶ！ こんな事で気を悪くするよう人じゃないって！ あるわきゃないけど、もし何かあったら俺がちゃんと謝るからさ。  
カ：なーんだ。江成君は知り合ってたの。  
江：いや？ そのうちお友達になっていたたく予定♡  
カ：……。  
江：ところでさ、浅ナジミの釣りでメジャートーナメントで先に結果を出したのはどっちなのよ？カ：多分、僕の方が先ですね。でも彼もこの頃はナインクラブで活躍してましたね。まだあんまりオーブントーナメントに興味がなかったんじゃないかなあ…。  
江：やっぱそうだよなあ。ダイワで初優勝したのは99年でもねえ。  
カ：でも、理論付けて雑誌に発表したのは彼です。だから彼物でしょう。僕の方が先だなんて主張するつもりは全くありませんよ。それこそまったく意味のない議論です。本質的な部分は別物だと思ってるわけですよ。それに大体、小林君や僕なんかよりはるか以前から浅ナジミの釣り自体は存在したわけですよ。流行はくり返すんですけど、その時代その時代で、誰が最流行させたのかっていうだけの事です。  
江：おー！ さすがは業界の大先輩、いいこと言うー！ でもホントにそうなんだよね。大昔にどこまで細かく分析していたかというの置いといて、北城さんも言うてたけど、カタチで見れば新しい釣技なんてほとんどないんだよ。みんな大昔からあったんだよ。



江：話は変わるけど今日さあ、面白い事があったんだよ。俺が昼過ぎに赤べら釣ったの見てたでしょ？  
カ：見てた見てた！  
江：あの赤べらね、朝からずっとウキのまわりにいたんだよ。何度エサ打ちしても絶対に下向かなくってさ(笑)。こいつは相当スルイへらだなんて思ってたんだ。それが竿を1尺長くしたらあっさり1投目で釣れちゃったでしょう。ちよつと考えさせられちゃったんだよ。  
カ：それはちよつと面白いデータだよ。  
江：でしょ？ 自然界ならアルビノって長生き出来ないじゃん？ 虚弱体質なのかどうかはよく知らないけど、なんてったって外敵から目立ちやからね。もちろん今日の赤べらはアルビノじゃなくて金魚との交配だと思っただけさ、釣り堀でもやっぱ外敵はいると思うんだよ。鵜とか猫とかさ(笑)。そんな不利な条件を生き抜いてきて、悠々と俺のウキの周りを泳いでたわけだよ。「コノヤロウ！ どうやってたら釣れるんだ？」ってボンヤリ考えながら釣りしてたんだけど、きつと絶対釣れないんだろなあとも感じてたんだ。でもやっぱりエサを食わなきゃ生きていけないんだよ。生き物だから(笑)。条件反射かもしれないけど俺の打ったエサに反応していたのは事実なわけで、釣るための突破口は結局それしかないだろうって思ってたわけ。  
カ：うーん、でもそれじゃ当たり前っていうか漠然としすぎちゃって、結局何も方向性は見つかってないじゃん(笑)。  
江：だから言ったじゃん、漠然と考えていただけなんだって。それがね、竿を8尺から9尺に換えたらいきなり釣れちゃったわけだよ。全然意識なんかしてなかったのに…というより、赤べらの事なんか忘れてたよね、その瞬間は。だって竿を換えてなんとか巻き返しを回ろうと必死だったし。カ：偶然だけではどうしても片付けないらしいね。

いね(笑)。江成君らしいよ。で、江成君的には今回の現象にどう理屈付けたわけ？ 釣り手側の釣るう釣るうという意識が薄れた瞬間に、赤べらに魔がさしたって感じ(笑)？ こういう話ってたまに聞くよね。手を離しているとかアタるとかさ。だから竿を持っていかれるんだ、なんてね。  
江：それはね、俺も一瞬考えたんだよ。でもさ、赤べら以外のへらに対しては釣るう釣るうという意識が満々なわけですよ。こういう話の時って、1枚1枚のへらの顔(?)を意識して釣ってるって前提じゃないでしょうか。群れ全体に対しての話だよな。  
カ：なるほど。でも、寄り始めは釣れるって言うじゃない。竿を換えてる時間がちよつと良かったんじゃないかな。  
江：それも考えたよ。たしかに寄り始めは簡単だってよく言われるよね。最初に寄ってくるのはやる気のある素直なへらだ。釣りに進むに従って、ガサベらも寄ってくるし、いいへらだって寄り過ぎちゃってウキの動きが複雑になりすぎちゃうって事だよな。でもさ、「8尺の時にはスルいへらだったのが、9尺になったらいいへらになるのか？」ってことになってきちゃうんですよ。  
カ：そっか…じゃあ8尺では警戒してたけど、9尺なら沖に出たぶん安心したって事でもいいんじゃない？  
江：では、それを頭に置いてこの話を聞いてくれる？ よくみんな釣りにして、「食うへらが少ない」「とが」「いいへらがまわってきた」「ズルいへらがまわってきた」とかいう言い方をするよね。その群れや個体によって差があると。俺はコレを否定するつもりなんて全くないんだけど、もしかするとそんなのは釣り人側の思い込みであって、ホントは食うへらも食わないへらも同じ群れ・個体の可能性があるって事にならないかな？カ：なるほど！ 「1枚のへらが、食うへらにも食わないへらにもなる」って事だよな。とすると、どっちに転ぶかの境界線ってのはどこにあるのかっていう話になってくるわけだね。  
江：そうなんだよ！ 食うへらに変わるラインがあるって事だよな。だからといってそのラインを

どう見つけるかというのは難しい事だと思っただけだ。ただね、なんとなくこれって今のセット釣りにも当てはまるかなって思ったんだよね。

カ…という？  
江…バラケの拡散範囲とへらの位置関係において釣ろうとしているへらよりもっとバラケの芯に近い位置にもへらっているわけじゃない？ その近い所にいるへらも口を使うだけれども型が小さいから狙わないっていうケースもあるんだらうけど、大半のケースではその位置のへらが食わないへらだからって理由で遠巻きにいるへらを狙うわけだよね？ だけど水中ではどの場所だっただけだよね？ 泳いでるわけだし…

カ…ああそうか！ バラケに寄ってくるへらについて、きつちりと食うへらと食わないへらだなんて分かれてはいないって事だね？ ところが今日の江成君の8尺と9尺みたいに、例えば下ハリと20cmと30cmで事態は劇的に変わってくる可能性がある、と。

江…そうそう！ どっちも同じ事じゃ？ だから今日から「へらの位置」っていう言葉じゃなく、「ライン」って呼ぼうかな(笑)。位置っていうと固定ってイメージが強いけど、ラインならその内側と外側の両方をイメージさせるでしょ？ 行ったり来たりってイメージに繋がらない？ 江…ア解りました！ しっかり江成君はそういう事を考えるのがホント好きだよ(笑)。

江…釣りに行かない分、頭の中で楽しんでる。でもさ、最初に言ったけど10年以上前に夢中でやってた頃はね、俺らはあんまり遠巻きとか意識してなかったんだ。常に直近のへら狙いだから、セッティングをきちっとつめていけば、余分なイトズレはないんだよね。きれいにナジんで、静かにドーンって感じ。だから20cmと30cmで事態が変わったとしても、「それまでとは別のへらに届いたんだ」とか「いやいやラインを越えたんだらう」なんて考える余地はあまりなかったわけ。だから今日はすごく嬉しいよ！ 新しいパズルをプレゼントされた子供みたいな気分だよ。

カ…それは良かった(笑)。…ところでさ、ひとつ聞いてもいい？ 今日、赤べらが複数いたがもし

れないっていうのは想定してないわけだよ(笑)？

江……それを言っちゃアお終いよオ！ …でもホントにその後は見てないしな…

カ…冗談冗談(笑)。こういうの考えるのって楽しいよね。江成君のは空想というより妄想系入ってるけどネ(笑)。

### 「小ウキなら釣れる」の間違い。

カ…そういうえば江成君のウキ、ちょっとかつたるそうに立ってたね。いつもそんな感じなの？

江…いやあ、ほとんど手持ちのカツケウキがなんだよ。今日使ってたウキより上のやつになると、オモリの量がグンと増えちゃうんだよね。早く作らなくちゃいけないだけだよ…

カ…それならいいんだけどさ。よくいるじゃない？ 小さければ釣れると思ってる人が(笑)。

江…おいおい、さすがに俺はそうは思っていないよ。適正サイズってのがあってますよ(笑)。カ…釣り堀に行ったことがなく、タナ規定のある管理釣り場しかやったことがない人って結構いるんだけど、そのへんを勘違いしてる人が多いよね。さっき言ったけど「何でもアリ」なら「小ウキは釣れる」ってことになっちゃうからね。

江…そういう意味では、タナ規定のない釣り場は「安全地帯」がない分シビアだと言えただけで、「シビアだからこそ超・小ウキ」っていう方向に走っちゃう人がいるよね。まるっきり間違いないと思うけど、シビアっていうのをへらのズルさだけとらえると勘違いしやすいと思うんだよ。

確かにへらはズルいで、オモリが少なければ少ないほど吐き出しも遅いんだらうけど、その前に魚の量や活性に負けちゃってたら意味がないよね。バランスよくいかないと。

カ…そうそう。無理のないタナで攻めるっていうのは、オモリから下に溜まるへらの量が追わせる釣りに比べて多いって事になるから、きちんと仕掛けを張れるオモリ量が必要なんだよね。あ、もちろんそれなりに追わせるんだ(笑)。

江…わーかってるよ(笑)。振り返ってみると、メーターの池ではバリバリなのに自由池では途端に釣れなくなるっていう人は、10年前でも結構いたよね。見るとすごく小さいウキを使っている人が多かった気がする。でもこれは分かる気がするんだよ。みんなウキの選択基準の基本は水深だろから。1mの水深で使っているウキが基準なら、カツケはこうだろ、なんてね。今のメーターで使われているウキは、かなり軽いウキだよ。

ね。追わせる度合いが今日の話とはまるで違うわけ。なのにそれを基準にしてしまったら、ハマる可能性は大か。岡田君の記事の中で、「カツケウキの方がオモリを背負うのが興味深い」なんて里ちゃんが書いてたけど、そこで終わらせちゃうだけだ…

里…ブホッ！ いきなり振らないで下さいよ…ビックリしたなあ、もう。米が鼻に入っちゃったじゃないですか…

カ…編集長も大変だね、こんな人と仕事してて(笑)。

里…そうなんですよ。ものすごく気を遣ってるんですよ、これでも…

江…そうだったの？ 俺の取材の時はずきりラックスしてると思ってたよ。

里…キツいなあ…  
江…ウオッホン。俺は今とても気分が悪い。気を遣っていた筈の誰かさんが、今日、俺より3枚も多く釣ってるらしい。それってどーゆーこと？  
里…ハイハイ。コーヒーおかわりお持ちしましょうか？  
江…オレンジジュースがイイ！  
カ…アハハ！



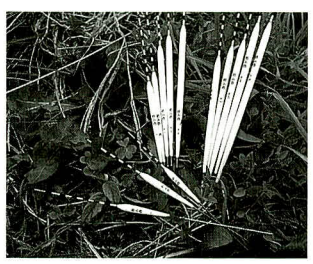
▲江成のウキは、残り少ない自作の「三平」。かなり細身で、かつ、足長。確かに、かなりかったるそうに立っていた…

【完】

競技派からのんびり派まで、すべての釣り人に使って欲しい…

へら浮子  
**杉山作**

浅ダナスタイル  
【パートI・パートII・ワイド・ムク】  
(各1本4,500円)  
フリースタイル  
深田スタイル  
(各1本5,000円)



取り扱い店〈五十音順〉  
埼玉・越谷 かわせみ (048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (03-3499-5025)  
埼玉・入間 三水堂つり具店 (042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (044-287-7470)  
東京・吉祥寺 丸勝 (0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (0428-22-2467)

合掌

へら鮎社の社長が亡くなられた。4月17日のことだった。

通夜に参列した僕は、遺影の中の故人に「こんな方だったっけか」と感じた。それもその筈、生前に僕がお会いしたのはたったの一回だけだった。以前ホームページで触れたことがあるが、僕は失業中にへら鮎社の面接を受けている。その時の一回なのだ。結果として僕は採用されず、現在の職に就いた。そういう意味でたったの一度ではあるが、僕の人生の分岐点において故人は非常に重要な登場人物であった。時が経ち、当時僕を誘った編集員の「まるじあちゃん」も、当時の編集長H氏も、今や編集部にはいない。何ひとつ不変のものなどないのだ。

アクシデントは突然やってくる。というより程度の差こそあれ、人生はアクシデントの連続かもしれない。発生してしまったりありがたくないイベントをどう捌いていくのか。これは人生の目標とはかけ離れたテーマであり、全くの時間の無駄・遠回りのように感じるが、その人の度量が試される大切な問題である。海援隊の「贈る言葉」の中で、「人は悲しみが多し程、他人には優しく出来る」というフレーズがある。ドラマ「金八先生」は僕の小学校高学年の頃の放送で、それなりに影響を受けた。このフレーズから学んだ「何事も人生勉強にする前向きな姿勢」は、今も変わらない僕のポリシーのひとつだが、それでも捌き切れない問題は山程ある。

「Bさん」その後...

3月号でBさんという方のメールを紹介させていただいたが、直後にこういう反応をいただいている。

「3月号読みましたが、今回の件については本当に憤慨しています。こちらはメールだったのにも関わらず、なぜ雑誌で公開する必要があったのですか？ 人を笑い者にするのは勝手だが、こちらは雑誌で反論することは出来ないのに立場を利用したいじめは許せない。しかも「自分はただの人です」といつて、よくあそこまで人生語れるね。神様取りはいいかげんにしろ。おまえ年下のくせに生意気なんだよほか。(原文ママ)」

「Bさん」の投稿に書き込まれた直後、僕はBさんを騙ったイタズラだろうと様子を見る事にしたが、しばらくして全く同じ内容のメールが僕宛に届いてしまう。僕は前回Bさんから届いたメールによって、実名もメールアドレスも知っていた。…残念ながらBさん本人からであった。今さらという気もするが、弁解させていただく事にする。

「こちららメールだったのにも関わらず、なぜ雑誌で公開する必要が…」

断りなくメールを公開したことは申し訳なく思いますが、ホームページの「はじめにお読み下さい」のおことわり」に書いてある通り、事前承諾を得ない場合が有ると明記されています。公開した理由は、3月号に書いたように記事とホームページ両方に関する話だと思っただけです。おあつらえ向きのメールがBさんから届いたことこそ、V人を笑い者にするのは勝手

「僕がいつ笑い者にしましたか？」

「こちらら雑誌で反論することは出来ないのに立場を利用」  
あの文章とBさんという名前で、あなたの個人情報や漏れるでしょうか？ 立場を利用した個人攻撃になってますか？ 僕はそんな卑劣なこととは思いませんよ(やることしたら上手にやろうとは思いますが)。漏れまくっているのは僕の方ですよ。危険にさらされているのは僕の方です。

「よくあそこまで人生…」  
「この文章は要め言葉と受け止めていいのでしょうか？ 今まで自分はいっさいこのテの本を読んでいるので、自信がつかまりました(笑)。」  
「V神様取りはいいかげんにしろ」  
「ですから、気取るとしたらこれからです(笑)。」

「…というのは冗談ですが、あくまでも僕個人の人生観ですよ。それを押し付けたとられたら困ります。紹介ですね。あの文章を読んで、僕が自信満々に書いているというふうに見え取るのはBさんの自由ですが、あんまりうがった見方をしないで内容だけ冷静に読んでみて欲しいと思います。そうしたら江成も「なんで生きるのか」というテーマについては悩まばなしなんだな、と理解していただけたと思うのですが…。僕だって毎日いいことばかりじゃないですよ。釣りに対してBさんよりは人生らしきものを見い出せているのでしょうか？、それだって完全じゃないんです。釣りの事を考えていれば毎日幸せというほどのものじゃないんですよ。僕よりはるかに釣りに深く関わっている編集長の里ちゃんだって同じ苦です。大義だけでは24時間を満たせんんです。また、記事に書いたように誰かに必要とされているかもしれないけれど、正直に言っただけから満足出来るわけではないと思います。そういう意味ではBさんと同じです。僕だって目先のミニイベントは必要です。やりたいこともいっぱいあるし、1月号に書いてあったように欲しいモノもいっぱいあります。お金だけでなく時間も欲しい。できれば綺麗なお姉さんとも遊んでみたい。ホントに悟っていたら「欲」なんてあるわけないじゃない。幕まで持つて行けないんですからネ。毎日逃避ばかりです。しかも毎日には快樂だけでなく、苦痛もあります。ありがたくないイベントであっても、発生しちゃうんです。最近の僕なんてブルーな日、多いです。でも自分が書いた記事に責任を持たなきゃアカンな、と思って頑張ってます。

「V年下のくせに生意気なんだよほか」  
僕はBさんの歳を教えたはだいてませんが、Bさんが人生の先輩である可能性も見越して、「いくつ位の人なんだろう？」という文章を添えしました。あの原稿の中で「一番気を遣った部分でした(笑)。気付いていただけなくて残念です。」

「と、マジレスしちゃったが、初回のメールも今回のメールも実は、「Bさん本人によるイタズラ」である可能性にも勿論気付いている。一種の「ネットストーカー」というやつだろうか。3月号が出る直前に、僕は里ちゃんこんな会話をしている。「Bさん、反応あるかね？」「うん、メールを読むと、本気で書いているわけじゃないような気がするんですよ。カマッテ君なんじゃないですかねえ？」「やっぱ？」じゃ、マズかったかなあ、今回の原稿…」

「いいんじゃないですか？ ちよūdい題材にさせていただいたわけですし。ただしこれ以上深入りするの危険がもしもありませんね」  
「了解。正直言っただけの原稿に対して今、全然自信が持てないんだよ。ここんとこテンション下がります。まくりでさ…」  
「にもかわらず、深入りしている僕。これには理由がある。僕は釣りに離れていた時期に、夜な夜なネット巡回をしていた。とあるBBSで知り合ったSさんとはじめて直にお会いした時の苦しい思い出が、僕のBさんへの関心をそそるのだ。」  
職場での人間関係に悩んでいた当時、僕は無意識にネット上で新しいコミュニケーションの場を探していたのかもしれない。そんな中出会ったSさん。偶然近所の方だったこともあり、共通の話題で盛り上がった。直に会う日が来るのは時間の問題だった。

ある日、Sさんの家の前を偶然通りかかった僕は、アポなしでSさん宅(商店)を訪ねてしまった。アポなしということは十分わきまえているつもりだったので、時間にしてほんの数分のご挨拶という感じがこの日は終わった。しかしこの日の夜、帰宅した僕はSさんからのメールに呆然としてしまった。

「自己紹介もせず一方的に話し始め、勝手に喜んでいてあなたを見て、不快感を覚えました」  
必死にその場面を思い出そうとしても、焦って思い出せなかった。自己紹介はしたつもりだったが、していなかったのか？ それともネット上でのことだったか？ そんなに一方的だったか？ 会話になっていなかったか？  
頭の中は真っ白になった。何も思い出せないが、Sさんの言う通りなのだろう。アポなしもマズか

# 釣番付

## 料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

## 書体見本

- 1.ぐりへの釣会
- 2.ぐりへの釣会
- 3.ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

## ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

## 取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）  
03-3613-2727  
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）  
044-911-3722  
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）  
03-3499-5025  
フィッシング中原（神奈川県川崎市）  
044-711-8266  
鮎仙人（神奈川県川崎市）  
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
あとりえぐり

http://www.office27.com  
E-mail:info@office27.com

## 優先順位。

つたと思う。自己弁護するなら、余程嬉しかったんだろ？な」と思う。やっと見つけた新しい心の拠り所に、初めて会えたのだ。地獄からやっと見えた天国。しかし、相手には僕がどういう状況に置かれているかなど関係ないし、マナーは重要だ。この時は、自分がいかに自己中心的な人間なのか思い知らされた。Bさんのメールにもその傾向は窺える。紹介したBさんからのメールは少々アレンジしてあったのだが、当然自分からのメールだと信じて疑わないところがそう。そんなBさんを僕はついつい自分と重ねてしまふ……。

余談だが、そうは言っても「不快」という文字はキツ過ぎると思う。ノイローゼ気味だった僕にはこたえた。天国から一転、地獄へ逆戻り。しかもさらに深い所へ突き落とされたような感覚だった。勿論自分で撒いたタネではある。しかしもし僕がSさんの立場だったら、決して使わない。無用な引き金は引きたくない。世の中にはどんな事情の人がいるか分からないからだ。

う一度整理してみたいと考えている。納竿間際、複数の方から声をかけていただいた。中でも「あれ？ 今月はもう釣りに来れないんじゃないかかったでしたっけ？」という言葉に、ドキッとした。「読んでますね〜」。この日はたまたま仕事が多忙となり、天気も良かったので釣行となつた。水辺に着いてみればやはりまだ寒く、薄着の家族は早々に車へ退散。普段ならそのまま竿を振り続けるのは難しい空気だが、この日は遅い時間の入場だったので、終了時間まで釣りをやらせてもらえることになった。なんて書くと、ホントに恐妻家に見えますね（笑）。実際はそんなでもないです。

「休みが全くないんですか？」と聞かれる事がよくある。そんなことはないのだが、職場で人員が減つた分、休みも減つたのは事実。それでも世間一般と比べれば、まだまだ休みは多い方なのかもしれない。僕の場合（皆さんもそうだと思うが）、「自分で自由に使える休みが少なく」と言つた方が正しいだろう。

では何のために休みを使うのか。それは家族のためであり、町内会のイベントであり、会社の労組の会合などだ。残つた休日の中で釣りに行くわけだが、その中で「ツカえる休み」となるとまた限られてくる。不休日の僕の職種の場合、平日の休みが多くなる。パリアスの試約に行こうと思えば直前に休みはあるが、平日では意味がないのだ。トーナメント参戦をテーマに掲げた今年は、ト

ーナメント当日は強引に休みを取るつもりではない。しかし、試約の日程までは言い出せないでいる……。

僕の仕事を知らぬ一部の仲間から、「平日なら釣りも好きなポイントに入れて羨ましい」とよく言われる。確かに最初は僕もそう思ったし、事実そうだった。しかし休みの度に釣りに行ける余裕はない。単独釣行になる可能性が高いため、高速代も燃料費もワリカンというわけにはいかない。しみつた話になるが、誰しも月々の収入というものはほぼ決まってると思う。その中で、毎月必ず出ていくお金というのも決まってる。だから、へら釣りは遊びだから、残つたお金の中でやりくりしなければならぬ。

ワイドショーでよくとりあげられるサラリーマンの平均的お小遣いでは、全てを釣りにだけに注いだとしても、どんなに自分で自由に使える休みが多かったとしても、釣行回数は僅かの筈だ。何かを犠牲にしているか、あるいはお金をたくさん持っているかしないと、休みの度には釣りに行けないのだ。僕は、野釣りではなく、近所の釣り場へ行くことさえままならない。

……おっと、ここまでの原稿をチラッと見た女房が御立腹だ（笑）。実は僕の場合、お小遣いは定額制ではない。もちろん要求するだけ全額貰えるわけではないが、一般のサラリーマンから見れば羨ましいだろう。ここまで読んで来て「ふざけるな」と思った読者の方もいるかもしれないので、「こ



ンナサイ」しておく。

ではなぜ釣行費を要求しづらい空気になってしまったのかといえば、僕に毎月何かしら欲しいモノがあるからだ。それはたいがいパソコン関係のもの……。僕はApple社のMacintoshファンだが、パソコンは趣味としては認識したくない（女房はそうは思っていないらしいが。なぜならパソコンは道具だからだ。仕事は道具と段取りで決まる。より使いやすい物、使いやすい環境にしておきたい。それだけなのだ（ホントかい？）。しかし夢中になるとそれは趣味になる。僕の経済力では、釣りとパソコン両方は無理。

家庭内LANの構築から始まって、無線LAN化、光ファイバ導入まで辿り着いた。現在構築中の自宅サーバが完成したら、一区切り付けようと思つている。この春から息子が保育園に通い出したため、平日休みの午前中は自由になる。ウキを作るのもいいし、釣りに行くのもいい。

……あ、その前にハリ結んどこ。

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける…

# へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.462  
2004 Jun

6

釣り人の夢が、手の届くところにやってくる。

それが、乗込みの釣り。

腹の底から震えがくるような、巨べらとのスリリングな知恵比べ。  
釣り人としての本能を激しく揺さぶる、巨べらとの激しい真剣勝負。

野釣りを愛する稲毛利夫が、城沼で夢を見た。

そして…

大きな大きな「夢」が、水面を割る！

乗込みべららに  
会いに行こう。

昭和41年5月4日第3種郵便物認可  
 第39巻第6号（毎月1回1日発行）  
 平成16年6月1日発行

# 「ダダンゴ」に勝機！ 「ペレ道」始動！

ウドン「感嘆」系のセットの宙釣りで、強烈なカラツンが多発。こうなると、勝機はいよいよダンゴエサに。決まれば圧倒的な強さを発揮する、ダンゴの釣り。注目のエサは、今年もペレットだ。そこでおすすすめしたいのが、マルキューの「ペレ道」。その幅広い対応力で、ダンゴのスタートから、ペレットを思う存分使いこなせる。しかも、ペレットならではの爆発力はそのまま。強烈な集魚力、タナを安定させる重さ、良型を揃えるパワーを備え、ダンゴのシーズンを迎えて、今年も「ペレ道」が動き出す。



定価 1000円 本体九五二円



## 爆発力と柔軟性が魅力の、宙釣り用ダンゴのベースエサ。

ペレットと麩がはじめから混ざり合っている、つくりやすく使いやすいベースエサ。ペレットの持つ圧倒的な集魚力と、エサのまとまり感、特有の重さはそのままに、ネバリの出にくいペレットとバラケ性のある新麩の効果で、経時変化を抑えました。だから、ペレット独特の時合いをしっかりと作れ、しかも長続きさせられるのです。短竿の釣り、ペレットの宙釣り、チョーチン釣り、底釣りやセットのバラケまで、幅広い使い方に対応する、柔軟性も魅力です。

### これが「ペレ道」のブレンドパターン。

- ① 浅ダナ 「ペレ道」1+「もじり」2+「軽麩」3+水1.5(練り込んで使っていく)
- ② チョーチン 「ペレ道」2+「特S」2+「粘力」1~2さじ+水1.5+「スーパード」1~2
- ③ 底釣り 「ペレ道」2+「ダンゴの底釣り冬」1+「バラケマツハ」2+水2

●ペレ道 (スライダーチャック袋)

つれるエサづくり一筋  
**丸マルキュー**  
<http://www.marukyu.com/>

本社 桶川工場 埼玉県桶川市赤浜 2-4 〒363-8509  
 TEL: (048) 728-0909 (代) FAX: (048) 728-3909  
 大阪支店 大阪府寝屋川市楠根南町12-14 〒572-0811  
 TEL: (072) 824-0909 (代) FAX: (072) 825-0909

四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053  
 TEL: (0877) 44-0909 (代) FAX: (0877) 44-3909  
 九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023  
 TEL: (0942) 82-0909 (代) FAX: (0942) 83-0909

釣り場でエサに困ったら  
 iモード・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>

